

# 学生団体 CHISE が目指す SDGs への貢献

～ラオス語を知らない子ども達への就学準備に向けて～

環境人間学部 環境人間学科

教授 <sup>いぬい みき</sup> 乾 美紀、3 回生 <sup>きしだゆうな</sup> ◎岸田夕奈 <sup>さるたゆうだい</sup> 申田裕大 4 回生 <sup>きたがわあいか</sup> 北川愛夏

## キーワード

多文化共生, SDGs, 識字率, 教育支援, 就学前教育

## 研究概要

現代の社会では SDGs が大いに注目されており、世界中でその達成に向けて様々な取り組みが進められている。そのような中、学生も SDGs の達成に貢献できることを示すため、私たち学生国際協力団体 CHISE (チーズ) の活動を紹介する。

【活動の背景】CHISE はラオスに教育支援をしている学生団体であり、SDGs のゴール 4 として掲げられている「質の高い教育をみんなに」の達成に貢献するため、活動を展開している。2011 年から現在までにラオスに 5 校の学校を建設してきた。コロナ禍以降も新たに支援する村を決定するため、山岳地帯にある「ロンロード村」で 2 回のオンライン視察を行い、それをもとに現在活動を行っている。

【現地の問題点】ロンロード村にある小学校のラオス語の授業を見学した際、子ども達のラオス語能力が都市部の子ども達に比べて低いことが分かった。同村の子ども達はモン族であり、日常生活ではモン語を使って話しているが学校ではラオス語で勉強する必要がある。しかし、小学校 3 年生でもラオス語が通じにくい、5 年生でもラオス語の読み書きが難しいといった課題があった。そこで学校の先生に尋ねたところ、ロンロード村には幼稚園がなく、小学校入学時までラオス語に触れる機会がないという事実が明らかになった。幼稚園がない理由は、教員 1 名を派遣するために必要な子どもの数 (20 名) を満たしていないためである (村の 5 歳児は 12 名)。ラオスの地方では深刻な予算不足に直面しているため、そのような場合は授業を行わないかボランティア教員が担当する。ボランティア教員は、文字通り、通常得られる給与 (月額約 2 万円) を得ることなく働いている。

【CHISE の貢献】そこで CHISE は、ラオス語を知らない子ども達への就学準備を目的として、今年の 6 月から「ラオス語教室」のサポートに取り組んでいる。具体的には、教員への給料として月額 2 万円を支援している。また、現地の子供達や保護者のライフスタイルに合ったよりよい教室にするため、現地コーディネーターとミーティングを定期的に行っている。このように、子ども達が小学校入学前からラオス語に触れられる環境づくりをすることで、スムーズにラオス語学習が進められることに期待している。

## アピールポイント

私たちのプロジェクトのアピールポイントは 3 つある。第 1 に、現地との教育支援の活動はすべてオンラインによって行っていることである。現地の視察、よりよい教育に向けたミーティング、送金手続きなどの現地とのやり取りはビデオ会議やインターネットを介した方法で行ってきたが、活動は順調に進めることができている。第 2 に、現地の人たちとともに村人のニーズに合った支援を行っていることである。現地には雨季と乾季があり、季節によって子どもたちが授業に出席することが難しい時間帯がある。その場合、子どもたちの出席率が高まるよう授業の時間帯を調整することがある。また、子どもたちが椅子に座って授業を受けることが難しく、地面に座って自由度の高い姿勢でいるほうが集中できるということがある。その場合は現地の人々の裁量に任せて柔軟に授業スタイルを変えている。このように、村人のニーズに合わせて支援を工夫している。第 3 のポイントは、SDGs に貢献するための取り組みを行っていることにある。具体的には、子どもたちに定期的にテストを実施し、教育の効果を測ることを試みている。そうして得られた結果を分析し、識字率を向上させるための工夫を模索する予定である。このように識字率を向上させることは SDGs の「質の高い教育をみんなに」の目標達成に貢献することにつながり、現地の状況に沿った教育の在り方を尊重しつつ持続的で質の高い教育の実現に向けて大きく寄与すると考えている。現地に渡航が可能となった際にはさらに村人たちとの会話を重ね、子ども達とも交流を深めたいと思う。